

# ニューズレター 2022年度 第3号

日本音楽表現学会 2023年3月31日発行

## 目 次

|                                                              |       |    |
|--------------------------------------------------------------|-------|----|
| 【巻頭言】作曲ってどうやってするのですか？                                        | 藤原 嘉文 | 2  |
| 日本音楽表現学会 第21回（平安）大会のご案内                                      |       | 3  |
| 【随想】モーツァルト：『魔笛』『モノスタトス』にみる異文化間の問題<br>ーリブレットと音楽の狭間から浮かび上がるものー | 宮本賢二郎 | 7  |
| 新入会員紹介                                                       |       | 8  |
| 会員による新刊案内                                                    |       | 9  |
| 後援コンサート等情報                                                   |       | 10 |
| 「日本音楽表現学会助成コンサート委員会」発足                                       |       | 11 |
| 『音楽表現学』の論文・報告も世界に向けて発信します                                    |       | 11 |
| 『音楽表現学』Vol.21 原稿募集                                           |       | 12 |
| 事務局からの重要なお知らせとお願い                                            |       | 13 |
| 第20回日本学術振興会賞 推薦募集について                                        |       | 15 |
| 日本音楽表現学会第21回（平安）大会会場のご案内                                     |       | 16 |
| 2022年度役員・委員等一覧                                               |       | 16 |
| 編集後記                                                         |       | 16 |

## 日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: [music-expression@music-expression.sakura.ne.jp](mailto:music-expression@music-expression.sakura.ne.jp)

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：A) 郵便局振込用紙利用 01370 = 6 = 78225 日本音楽表現学会

B) ゆうちょ銀行へ振込 <sup>いちさんきゅう</sup> 一三九（139）店（当座）0078225 日本音楽表現学会

## 作曲ってどうやってするのですか？

藤原 嘉文（作曲）

「作曲ってどうやってするのですか？」と訊かれることがある。いつも思うが、これほど答えにくい質問は無い。委嘱の場合は楽器編成などが決まっていることが多いので、その編成で何か面白いことや新しいことができないだろうか考える。奏者が決まっている場合は、その方の得意な奏法などがあればそれを生かせないかと考える。過去の名作にもあたってみる。スケッチを取る。このようなことを次々並べてみても、実際そこから作品として成立するまでの過程はもう紆余曲折、迷い道の連続。少なくとも私の場合、同じ手順でなんてことはあり得ない。これまで長年作曲を続けてきたが、どうやって作曲をしているのか自分でもよくわからないというのが正直なところである。作曲家同士でもこのような話はまずしたことがないので、他の人がどのように作曲しているのかなど、お互いに分からないというのが本当のところではないだろうか。

ただ私の場合一つの傾向というか癖のようなものはある。それは、曲の頭から発想する（書き始める）ことがほとんどない。絶対にやりたいと思った箇所、結果的にはそれが重要部分の一つになっていることが多いが、とりあえずこの楽想は絶対使いたいと思った部分を先ず試し書きする。それをC地点とすると、Cへ向かっていく道筋が見えてくるので、前に戻って書く。あるいは、遙か遠くにD地点が見えてくれば、それを確定し、そこへ向かって書き進める。要するに「行き先を決め、それに向かうにはどうすべきかを前に戻って考える」という繰り返しをやっているようである。推理小説の書き方に似ているようであるが、多分この傾向の作曲家は多いのではないかと想像する。

そのような私なので、今考えている部分が作品全体の中でどの辺の部分であるかが大変気になるのである。元々全体を俯瞰しないと気が済まない質なのか、例えば旅行に行っても、現在地がこの街のどの辺なのかということが真っ先に気になる。また、私は手書きで作曲をするので、五線紙を横へ横へと並べ、ある区間全体が見通せるようにして書く。作譜ソフトは、編曲など構成がある程度決まっている場合には使うが、一から曲を発想する際には使わない。熟達していないからという理由もあるが、全体が俯瞰できないのが一番の理由である（清書の際は、得意な方に依頼してコンピュータ浄書してもらう）。俯瞰という点に関して、先日友人と読書の話になった際のこと。昨今は電子書籍で読むことが増えたが、ある一冊の本を読むとすると昔ながらの「本」が良い。理由は、今読んでいる箇所が「本」を持っている手の感覚でわかる。あるいは、少し前をめくったりすることで、全体の流れの把握がし易い。確かに「スクロール」と「めくる」は違った感覚。私も新聞や雑誌など、一つの記事が1～2ページで終わるものならスマホで読むが、小説などは「本」だ。

そのような方法で作曲するので、オーケストラの作品を書く場合私は大変なことになる。とにかくオケ用の五線紙を並べるスペースが必要になる。写真は大学の夏季休暇期間、授業で使うことのない音楽演習室を2ヶ月余り作曲工房にさせていただいた際のもの。同僚の美術教授が作曲の制作場面を面白がって撮影しに来た。私は必死で作曲しているのでこのような場面を撮影することなど思いもつかないが、他分野の人にとっては珍しいのだろう。今となっては非常に貴重な、また記念になる1枚である。ご覧のように会議用長机をありったけ並べ、五線紙を置き、気に入ったところから書いていく。その部分が確定すれば前に戻って書き進む。先の方の部分の楽想が浮かべば、該当の五線紙のある場所へ移動して書く。要は私の方があちらこちらと書きたい部分の五線紙の場所へ移動しながら書く、ということを繰り返して完成させた。このような恵まれた場（？）をどう確保するかが、退職後の最大の課題である。最後に一つ。私は即興演奏も大好きである。その理由は、作曲のように前に戻って考えるのとは逆に、常に先へ先へと考えながら進める思考に頭を切り換えたいからかもしれない。



【オーケストラ曲の作曲現場】

# 日本音楽表現学会 第21回（平安）大会のご案内

会 場：京都女子大学音楽棟・幼児教育棟（京都市東山区今熊野北日吉町 35）  
会 期：2023 年 6 月 17 日（土）-18 日（日）

## 「平安」大会に向けて

— 日常の回復と音楽の喜びを念じて —

日本音楽表現学会会長 小西 潤子

2023 年立春を過ぎた頃、政府は 3 月 13 日からのマスク着用ルール変更と、5 月 8 日からの新型コロナウイルス感染症 5 類への引き下げを発表しました。学校教育現場でも、マスク着用の合唱やマスク越しに筒をつけたリコーダー演奏から解放される兆しが見えてきました。日常の回復と共に、私たちは「コロナ禍」を客観的に振り返ることになるでしょう。

その「コロナ禍」という語は、新型コロナウイルス感染拡大が深刻化した 2020 年 3 月半ば頃からマスコミから広まったようです。「大辞泉が選ぶ新語大賞 2020」の次点にも選出され、すっかりお馴染みの語となりました。

一方、無事平穏な日常は、名付けられることもなく過ぎていきます。しかし、音楽は安らかな日常において鳴り響き、人々の心に豊かさをもたらしてきました。本大会は、開催地・京都にもちなんで「平安」の愛称によって、世界中の人々が未来永劫に音楽の喜びを感じられるような日常の回復を念じる場といたします。

## 「平安」大会へのお誘い

大会実行委員長 木下 千代

第 21 回「平安」大会は 2 度目の開催となる京都女子大学を会場として行われます。京都はみなさまもご存じの通り、古くから多くの戦や災害に見舞われましたが、そのたびに人々が立ち上がり、災害を復興し、発展し、繁栄し続けてきた土地です。その中で雅な文化が生まれ、人々の間で絶えることなく継承されてきました。

京都には都としての美しさだけでなく、平和を願う人々の祈りと矜持が結晶していると言えるでしょう。今、世界各地における紛争・戦争に心が痛むこの時代にこそ、美しい京都の地に集い、音楽を通して私たちに何ができるのか、世の中の平安についてみなさまと共通の認識を持てれば、と願っています。

京都女子大学は明治 43 年に創立され、地理的には三十三間堂や国立博物館に近い東山の地にあり、市中からも交通至便です。ホスト大学には共催していただく他、先生方にも多大なご協力をしていただき、学生さんたちは着々と準備を進めて下さっています。実行委員一同、京都でみなさまとお会いできますことを心から楽しみにしております。

## 1. 実行委員会 今回の実行委員会は京都女子大学関係者と京都近辺の会員で構成しています。

委員長：木下 千代（兵庫教育大学）

事務局長：荒川 恵子（京都女子大学）

委員：牛渡 克之、大谷 正和、岡 ひろみ、岡林 典子、奥 忍、ガハブカ奈美、  
古庵 晶子、近藤 晶子、佐野 仁美、杉江 淑子、田中 純、土居 知子、  
豊田 典子、中村 公俊、似内裕美子、福本 康之、松井 萌、三島 郁、  
安田 香、吉田 直子

## 2. 名称〈平安〉の由来：古来音楽は平和を願って奏されてきました。また、「平安京」の名には「平らかで安らかな都」であることを願う気持ちが込められています。久々に京都で開催される本大会。終わりの見えない侵攻、山積みの課題を抱える社会、異常気象等々、皆が苦しいこの時こそ私たちは共に平和と音楽表現について考えてみませんか。

## 3. チラシデザイン：はんなりとした都の色合い、五月末に 3 年振りに開かれる「葵祭」に満開を迎える藤棚、不安定な世情が一日でも早く落ち着くことを願って「水流」を含めてデザインしました。歌人であり、箏や琵琶の名手としても知られる鴨長明の『方丈記』の冒頭—ゆく川の流れば絶えずして、しかも、もとの水にあらず—をイメージしています。（奥忍）

\* 京都女子学園シンボルマーク：「藤蝶」の名で親しまれるこのシンボルマークは学生の公募作品です。



#### 4. 日程表とプログラム

|                  |       |       |       |        |       |         |       |        |       |           |             |
|------------------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|-------|--------|-------|-----------|-------------|
| 16日(金)           |       |       |       |        |       |         |       |        |       |           | 16:00→19:00 |
| 理事会→実行委員会と共に会場設計 |       |       |       |        |       |         |       |        |       |           |             |
| 17日(土) 10:00     | 12:20 | 13:00 | 13:20 | 13:50  | 14:50 | 15:05   | 16:40 | 16:40  | 17:40 | 17:50     | 19:20       |
|                  | 会場準備  | 受付    | 開会式   | 基調講演   | レクチャー | 休憩      | 昼 会   | 休憩     | サロン   | 移動        | 特別公演        |
| 18日(日) 8:30      | 9:00  | 10:30 | 10:45 | 12:15  | 13:15 | 14:45   | 15:00 | 16:30  |       |           | 18:30       |
|                  | 受付    | 分科会 I | 休憩    | 分科会 II | 昼食休憩  | 分科会 III | 休憩    | 分科会 IV | 閉会    | 挨拶・復元、理事会 |             |

オープニング：「仏教讃歌—《<sup>しやうざいがん</sup>四弘誓願《<sup>おんがくらいはい</sup>音楽礼拝》《<sup>しめうえ</sup>衆会》」合唱と管弦楽：京都女子大学学生有志  
 調声：黒田義道京都女子大学宗教部長、指揮：坂本光太 合唱指導：ガハプカ奈美

基 調 講 演：「京都（平安）の文化」（仮）

講師：佐々木丞平 国立京都博物館名誉館長

レ ク チ ャ ー：「楽に寄す」

- ・小川 有紀（オルガニスト・音楽学）「明治初期、プロテスタントの宣教師が伝えた讃美歌」
- ・福本 康之（音楽学〈仏教洋楽研究〉）「讃美歌の影響を受けた仏教讃歌」

サ ロ ン：専門分野/関心分野を同じくする参加者が共通の話題・テーマについて話し合うサロン。昨年に引き続き、本年も大教室の中での グループ討論の形態となります。テーマは「音楽文化の夢を語り合う—日本、そして、世界はこうなっていけば素晴らしい。」

特 別 公 演：「文楽人形とその遣いについて—《<sup>ことぶきしきさんばそう</sup>寿式三番叟》《<sup>だてむすめこいのひかのこ</sup>伊達娘恋緋鹿子》《<sup>はですがたおんなまいぎぬ</sup>艶容女舞衣》を中心に—」

出演：桐竹 紋臣・桐竹 紋秀・吉田 簑悠（国立文楽劇場）

分 科 会：

| 研 究 発 表：18日 | I 9:00-10:30 | II 10:45-12:15 | III 13:15-14:45 | IV 15:00-16:30 |
|-------------|--------------|----------------|-----------------|----------------|
|-------------|--------------|----------------|-----------------|----------------|

| 分科会 | 司会 | 発表 | 発表題目 | * 2行を超えるタイトルはスペースの関係でサブタイトルを省略しています。<br>* F I と F 2 は基調講演と特別公演に関連する特別企画ワークショップです。 |
|-----|----|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|-----|----|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------|

- |       |       |                    |                                         |  |
|-------|-------|--------------------|-----------------------------------------|--|
| A I   | 多田 純一 | ①後藤 丹              | バッハ「平均律クラヴィア曲集 I」における前奏曲とフーガの音列的関連      |  |
|       |       | ②深井 尚子             | ベートーヴェンの哲学的知見と後期ピアノソナタとの関係の考察           |  |
| A II  | 山崎 英明 | ①田舎片麻未             | ピアニストの音楽観と指導観の交差                        |  |
|       |       | ②釘宮 貴子             | 19世紀末から20世紀初頭のドイツ・オーストリアで作曲されたジャポニズムの歌曲 |  |
| A III | 中村 隆夫 | ①藤川 順子             | ショパンの歌曲をめぐって                            |  |
|       |       | ②佐野 晴美             | 日本歌曲の新しい視座—京ことばによる歌曲の演奏・表現についての一考察—     |  |
| A IV  | 稲木 真司 | ①喜多 宏丞             | 瀧廉太郎《憾》の推敲過程—手稿譜の比較検証でたどる瀧の音楽的思考—       |  |
|       |       | ②小畠 エマ・高井 翔海       | 大人のためのソルフェージュ—教会旋法を使用した移動ド教育—           |  |
| B I   | 田中 宏明 | ①三島 郁              | 鍵盤奏者のためのパルティメント実践の試み                    |  |
|       |       | ②太田 公子             | モーツァルト交響曲第40番の分析—音響心理学的アプローチ—           |  |
| B II  | 竹内 直  | ①山本 奈央             | アレクサンドル・スクリャービンの交響曲とピアノ・ソナタの比較研究 1      |  |
|       |       | ②宮下 玲衣             | 三善晃の記譜法に関する一考察（2）—1970年代の作品を例に—         |  |
| B III | 神部 智  | ①鷺野 彰子             | 20世紀前半の即興の前奏演奏実践例とそれを取り巻く要因の関係性         |  |
|       |       | ②齊藤 武              | 図形楽譜の時代—武満徹の2つのコロナから考える視ることと聴くことの感性の進化  |  |
| B IV  | 成瀬 当正 | ①渡邊 寛智             | ヴェルディのオペラ作品における歌唱旋律の変化                  |  |
|       |       | ②細川ひとみ             | 19世紀前半—半ばのパリのワルツ—サロン作品、舞台作品の分析を通して—     |  |
| C I   | 小野 亮祐 | ①木村 貴紀             | 音楽評論における客体化の是非（仮）                       |  |
|       |       | ②清水 稔              | 即興と作曲行為における自由の再定義                       |  |
| C II  | 渡辺 修身 | ①田中 昌司             | イメージ演奏実験結果が示唆する脳内演奏のメカニズム               |  |
|       |       | ②大西亜希子・田中 昌司・小林 瑞季 | クラリネット演奏時の脳活動に関する考察および脳波の楽曲への応用         |  |

- C III 鈴木慎一郎 ①本間 千晶 体幹強化が演奏表現に及ぼす効果—スポーツトレーニングからの応用  
②伊達 優子 コロナ禍で学生は「音楽を対面で“発表すること”と“視聴すること”」をどう捉えたのか
- C IV 佐藤 和樹 ①寺内 大輔 演奏者自身の音楽履歴を素材化した音楽表現  
②阿部亮太郎 社会問題を視野に入れた創作活動について
- D I 田島 孝一 ①中畑 淳 室内楽曲におけるピアノパートの指導 (3)  
②松井 典子 オーストラリアのピアノ教育システムに関する研究
- D II 国府 華子 ①高井 翔海 音感とは何か 一定義の再考と Edwin E. Gordon による音感測定テスト—  
②尾見 敦子 「移動ド唱 solfa-singing」による「言葉に抛らない音楽鑑賞」の提唱
- D III 澤田まゆみ ①近藤 茂之 子どものヴァイオリン演奏におけるピアノ伴奏の一考察  
②中村 公俊 古くて新しいヴァイオリン教本—子どもと先生のデュエットで豊かな音楽が広がる—
- D IV 大竹 紀子 ①杉山 雄一 ワジム・ボリソフスキーの編曲—プロコフィエフ:ロメオとジュリエットを例として—
- E I 新山王政和 ①酒井 勇也 ライヴ・エレクトロニクスを活用した音楽表現活動の教材性  
②河本 洋一 『ビートレカード』を使ってリズム遊びを楽しもう！
- E II 長山 弘 ①魏 然 ポピュラー音楽における西洋クラシック音楽からの「借用性」—一日中の事例を通して—  
②宮川 渉 ポピュラー音楽における音色の分析方法に関する一試論
- E III 小西 潤子 ①村尾 忠廣 上音ウキの核音化による4度枠・5度枠構造、その認知・表現方法をめぐって  
②近藤 真子・平山 雄大 ジャムセッションで育む子どもの拍感—ニュー・マテリアリズムの視点より—
- E IV 吉田 直子 ①櫻井 知子 保育者養成機関における音楽表現の授業のあり方—ミュージックケアの体験を通して—  
②内山 育子・佐野晴美・藤川順子 授業における音楽劇の取り組み
- F I 【特別企画ワークショップ】  
安藤 珠希 榊原 明子 縄文・弥生・古墳時代の古代琴の変遷と、復元琴の新たな可能性
- F II 【特別企画ワークショップ】  
木下 千代 鶴澤 友球 “音曲の司、義太夫節を語ってみよう！
- F III 嶋田 由美 ①佐野 仁美・岡林典子 5歳児のグループ活動における絵かきうたづくり  
②荒川 恵子・豊田 典子・太田 公子 音楽と科学の融合プログラムに関する一考察
- F IV 徳永 崇 ①鈴木 祥隆・松浦 光男 アンクルンを用いた教科横断型講義の実践  
②岡 ひろみ 障害児者の余暇支援活動における音楽活動
- G I 永岡 都 ①井上 幸一 造形のイメージによる音楽表現—アートプログラム開発の実践報告—  
②余田有希子 無声映画伴奏譜集にみられる場面設定の音楽表象
- G II 渡会 純一 ①疇地 希美・佐久間真理・嶋田ひろみ・山本八千代・吉村雅美 鑑賞作品『すてきな三にんぐみ』  
②奥 忍 ウクライナとロシアの音楽物語の映像化
- G III 加藤富美子 ①梅津 彩音 地域の学校において開催した大学生によるコンサートからの一考察  
②小島 千か 教員養成における音楽づくり
- H I 柳 憲一郎 ①宮本賢二郎 ドイツにおける移民・難民の児童のための音楽活動—子ども歌・音楽による言語支援—  
②杉江 淑子 子どものための多文化音楽教材集（歌集）の開発に向けて—課題の整理と検討—
- H II 坪井真里子 ①加藤内蔵進・長岡 功・加藤 晴子 ドイツ付近の春・5月の気候と歌  
②甲斐万里子 ピアノ演奏における“deliberate practice”の実現過程
- H III 舟橋三十子 ①高澤 学 米国日系収容所での鉄条網の中での音楽—第2次世界大戦中収容所に入れられた日本人……—  
②滝 奈々子 先住民社会におけるポピュラー音楽の感性についての考察—グアテマラの事例をあげて—
- H IV 石原 慎司 ①坂本 典子 「生」を再構築する表現行為—リズムパフォーマンス「響心」<sup>ひびき</sup>の創作実践を通して—  
②安積 京子 日欧亜比較研究による少子化社会日本の高等音楽教育の中長期課題と対応

## 5. 「平安大会」アクセスマップと参加申込方法等

会場への主なアクセス：京都駅八条口（新幹線側）から プリンセスライン（写真）に乗車  
京都女子大学直行、終点で下車。（所要時間約 11 分）運賃（片道）230 円  
学会会場（音楽棟と幼児教育棟）は正門から徒歩 10 分程度です。（下図）



\* 学内は駐車禁止です。公共交通をご利用ください。

コロナ対策：3年にわたるコロナ禍が人々にいろんな形で影響を及ぼしました。とはいえ、昨年度は様子を伺いながら、おそろおそろ全面的に対面で大会を開くことができました。そして実行委員会と学会本部では今年こそは大手を振って堂々と通常の形で準備を進め、大会の日をワクワクしながら迎えたいと考えています。もちろん、対面会場や発表については感染防止の視点から環境設定をいたします。また、「サロン」はグループ構成を原則とし、「情報交換会＝懇親会」はやはりもう1年待つことにしました。事態の推移に伴って本部や事務局から連絡することがあります。学会からの緊急連絡は学会HPでお知らせしますので注視していただきますようお願いいたします。



参加申込手順：下記 Google Form によりお申し込み下さい。

【参加申込 QR コード】 <https://forms.gle/XscxFG1ZcuN5yR5c7>



- ① 参加費と年会費の納入を確認してからエントリーしてください。
- ② 参加ご希望の方は会員も非会員も、Google Form にしたがって必要事項をご記入下さい。  
メールアドレスは間違いのないように、正確にご記入ください。
- ③ 学会員で大会あるいは総会に欠席される方は Form 中の質問項目 2 「大会・総会の出欠について」の該当するボタンを押してください。

参加費納入：申込期日までに日本音楽表現学会大会に払込をお願いします。当日受付では現金を扱いません。

ゆうちょ銀行「00210=5=142606」（029 店 当座 142606）

|           |               |                               |
|-----------|---------------|-------------------------------|
| 学会員       | 6,000 円       |                               |
| 学会員以外（一般） | 3,500 円 / 1 日 | 7,000 円 / 2 日（『大会要項付』）        |
| （学部学生）    | 1,000 円 / 1 日 | 2,000 円 / 2 日（『大会要項』500 円で別売） |

18 日のお弁当（お茶付き 900 円）の購入希について：参加申込時に Form の該当するボタンを押してください。

お弁当代は参加費と一緒に払込下さい。

参加申込〆切：2023 年 6 月 5 日（月）24:00 厳守です。申込日時の厳守を切にお願いします。

そ の 他：18 日（日）の学食は閉店です。弁当を申し込むか、各自で適宜ご準備下さい。

大学近辺にコンビニはありません。

【随筆】

## モーツァルト：『魔笛』「モノスタトス」にみる異文化間の問題 －リブレットと音楽の狭間から浮かび上がるもの－

宮本賢二朗（音楽教育・指揮）

音楽教育における異文化間の問題を扱うことと、クラシック音楽の楽曲を研究することの間には、一見するとあまり関連がないように思われます。しかし、私には音楽学と演奏、音楽教育研究はほとんど連続した領域としてつながっているように感じられることがあります。モーツァルトを例にお話ししましょう。クラシック音楽の象徴とも言える W.A. モーツァルトは私に音楽と文化について多くの見方を示してくれた作曲家でした。

短い生涯で膨大な量の曲を残したモーツァルトの音楽は、誰が聴いてもモーツァルトとわかる特徴を備えています。しかし、その音楽は、ドイツ、イタリア、フランスなど多くの国々を訪れ、高名な作曲家、有力な宮廷や教会のスタイルを吸収し融合したものでした。モーツァルトの音楽では、ルネッサンス、バロック、前古典派、多感様式などが自在に融合されながら、晩年のロマン派的表現へと収斂していきます。こうしたクラシック音楽のスタイルの多様に加え、忘れてならないのは、トルコ、チェコ、ハンガリーなどの民族音楽の特徴が巧みに取り入れられていることです。他方でオペラ作品においてモーツァルトは、異なる音楽スタイルを意図的に使い分けています。例えば『魔笛』の場合、「夜の女王」の aria 2 曲はどちらも、バロック的なコロラトゥーラであり、彼女は絶対王政的な価値観に生きる人物として描かれています。これとは対照的に「ザラストロ」の aria は理性的で整った古典主義的な様式です。つまり、理性を重視する啓蒙思想的といつてよいでしょう。最終的には異国からやってきた王子「タミーノ」と夜の女王の娘「パミーナ」により、民主的かつ男女同権の新たな時代の到来を予告しオペラは幕を閉じます。この二人の音楽はすでにロマン派の傾向を強く示すものです。

こうした主要なテーマの陰にあって、褐色の肌をしたムーア人「モノスタトス」の存在は重要です。劇中のモノスタトスは、高圧的で利己的な人物、つまり典型的な悪役として描かれています。しかし、褐色の肌を持つイスラム人＝悪役（例えば『後宮からの逃走』の「オスミン」）という、18 世紀当時のステレオタイプ的な構図を用いながらもモーツァルトは、この登場人物の内面にまで光を当てました。平等を重んじるザラストロの城塞において、モノスタトスはザラストロの理念に従うわけでもなく、奴隷を所有しています。彼は思想的・社会文化的に違う世界に属するものでありながら、何らかの理由

でザラストロの国にとどまることを許されていると考えられます。眠っているパミーナを我がものにしようとするモノスタトスの aria は、「alla turca」のスタイルで、独白として歌われます。「誰だって恋をし、手をつなぎ、抱き寄せてキスだってしたいものだ。しかし俺は恋をしてはならないんだ、黒人は醜いからな。俺には心がないというのか！俺には人間の血が流れていないというのか！」。差別に苦しむ一人の人間を描いているという点で、この aria はモノスタトスという人物のもつ、文化的・人種的な背景に起因する問題を提起しているようにも思われます。

さて、問題は音楽です。速いテンポで、「sempre pp possibile」で演奏され、さらに台本には「遠くから聞こえてくるように」との指示があります。「パミーナを起こさないため」、という演技の面から説明はつくのですが、だからといって、常にピアノシモという指示は独特です。トルコ風の軽快で陽気な旋律が、月明かりが照らす寝室で、ささやくように歌われる。そしてその歌詞の内容は先に紹介したような深刻なものなのです。この曲の音楽とドラマの関係の解釈には随分悩み、自分なりの答えをだすのに長い年月がかかりました。もちろん「正解」というものはないでしょう。その中で、こんなことを考えました。もしこれが白人の登場人物であれば、モーツァルトは短調で、ゆったりとした悲痛な曲調にしよう。例えばパミーナの aria 「もはや望みは失われた」や、パパゲーノの aria 「恋人か女房でもいたらな」の最後、自殺しようとする場面のように。しかし、モノスタトスの場合は逆です。自分の抱えている悩み、怒り、そして悲しみを、できるだけ短く、そして周りには聞かれないように、白い月にだけささやくのです。白さは白人の価値観の象徴でしょうか。その白い月への抗議を観客に向かって、まるでタブーを犯すように怯え、あるいは怒りながら歌いかけるとすれば、それは当時どれほど衝撃的だったのでしょうか。

他にもこんな場面があります。ザラストロの城塞に忍び込んだパパゲーノはモノスタトスと遭遇し、お互いがその容貌に驚き逃げ出します。その後パパゲーノは次のように語るのです。「あーびつくりした。でも鳥にだって黒い鳥がいるんだから、黒い人間がいたってちっとも不思議じゃないな」。『魔笛』の中でも異文化理解の視点からひととき印象に残るセリフです。

---

## 新入会員紹介

---

2022 年 11 月 1 日～ 2023 年 3 月 2 日の間に、 プライバシーの視点から削除しています。

17 名の方々が入会されました。3 月 5 日までに届いた自己紹介を掲載します。なお、紙数の関係で、丁寧語・謙譲語・尊敬語などの敬語や文末の「よろしくお願いします」などのご挨拶は省いています。(五十音順)

プライバシーの視点から削除しています。

---

## 会員による新刊案内

---

中村 公俊さん

『ヴァイオリン二重奏で学ぶ 初心者のためのヴァイオリンスクール 楽譜のお勉強つき I』

【出版社】PUBFUN ネクパブ・オーサーズプレス

【判型・頁数】A4 判、88 頁

【発行年月日】2022 年 11 月 22 日

【定価】2,500 円（税込）

【ISBN】978-4-8020-7915-0

【内容案内ページ】<https://amzn.asia/d/28vLNrm>

中村 公俊さん

『ヴァイオリン二重奏で学ぶ 初心者のためのヴァイオリンスクール 楽譜のお勉強つき II』

【出版社】PUBFUN ネクパブ・オーサーズプレス

【判型・頁数】A4 判、92 頁

【発行年月日】2022 年 11 月 22 日

【定価】2,500 円（税込）

【ISBN】978-4-8020-7915-0

【内容案内ページ】<https://amzn.asia/d/8byus1f>

## 後援コンサート等情報

豊田 典子さん

歌の会★青い星第4回定期公演

室内オペラ「槍ヶ岳」

日 時：2023年5月3日（祝・水）16:00 開演

会 場：兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール

料 金：前売 3,500 円（当日券 4,000 円）

出演者：豊田典子、歌の会★青い星メンバー

曲 目：新作室内オペラ全3幕初演。山を愛する女性たちが、憧れの槍ヶ岳を目指した、ある晴れた夏の日の物語。

問合せ：兵庫県立芸術文化センターチケットオフィス  
0798-68-0223

深井 尚子さん

深井尚子・二宮英美歌ピアノデュオリサイタル

日 時：2023年3月18日（土）14:30 開演

会 場：ベヒシュタインセントラム東京ザール

料 金：一般 4,000 円

25歳以下及び70歳以上の方は2,000円

出演者：深井尚子、二宮英美歌

曲 目：モーツァルト / 交響曲第40番

ベートーヴェン / 交響曲第7番

（両曲ともピアノ連弾版）ほか

問合せ：090-4628-4054（深井）

佐野 晴美さん

きょうことば・こんさあと

こんな時こそ…京ことば ばあーと3

日 時：2023年9月16日（土）16:30 開演

会 場：有形文化財 京都 長谷川 歴史・文化・交流の家

料 金：前売り 2000 円 当日 2500 円

出演者：佐野晴美（メゾソプラノ）、植村照（ピアノ）  
竹中真（JAZZ ピアノ）

曲 目：嵐野英彦作曲・白川淑 詩「京ことばによる歌曲集」より「みつつのしゃんそねっと1・2」「祇園祭」等。童謡・唱歌を、竹中氏のピアノでジャズにアレンジ。「京ことばによる歌曲」の演奏会活動を始めて昨年で10年目。今回は、初心に戻って・・・ピアノの方も新しい方で再発售です。ピアノも京都人新しい発見がありそうです。ジャズの竹中真氏も、京都人。竹中氏とは、日本の童謡・唱歌をジャズにアレンジ、セッションに挑戦します。

問合せ：京都 長谷川 歴史・文化・交流の家  
075-606-1956（土・日のみ）

原 久美子さん

原久美子ピアノリサイタル

日 時：2023年5月13日（土）18時開演

会 場：ルーテル市ヶ谷ホール

料 金：一般 3000 円、学生 2000 円

出演者：原久美子

曲 目：J.S. バッハ / フランス風序曲

M. ラヴェル / 高雅で感傷的なワルツ

ラ・ヴァルス ほか

問合せ：原久美子ピアノリサイタル実行委員会

E-Mail / concert.etto@gmail.com

西沢 久実さん

創作わらべうたワークショップ

「神戸市兵庫区ええところ」

日 時：2023年3月21日（火）13:30～15:30

会 場：神戸芸術センター（シューマンホール）

料 金：無料

出演者：兵庫区在住の小学生他、西沢久実（音楽づくりファシリテーター）

曲 目：即興 神戸市兵庫区ええところ

問合せ：KOBЕ ミュージカルスクール

E-Mail / kobe.m.school@gmail.com

田中 宏明さん

田中宏明 ピアノ・リサイタル

日 時：2023年6月10日（土）17:00 開演

会 場：水戸芸術館コンサートホール ATM

料 金：一般 3,000 円、ユース（25歳以下）2,000 円  
（ユース前売り 1,500 円）

出演者：田中宏明（ピアノ）

曲 目：バッハ / トッカータ ハ短調、フランス風序曲

ベートーヴェン / ソナタ第31番 ほか

問合せ：水戸芸術館 チケット予約センター

TEL. 029-231-8000

伊藤（竹下）裕来さん

竹下裕来ソプラノリサイタル

日 時：2023年9月15日（金）18:45 開演

会 場：みなとみらいホール 小ホール

料 金：一般 3000 円 / 学生 2000 円（全席自由）

出演者：竹下裕来（ソプラノ）、阿見真依子（ピアノ）

曲 目：バーンスタイン / "I Hate Music!"

中田喜直 / 「四季の歌」 ほか

---

## 「日本音楽表現学会助成コンサート委員会」発足

---

日本音楽表現学会設立 20 周年、この味わい深い歩みを記念して新委員会が発足します。研究に基づく質の高い音楽活動を助成して、そのようなグループ / 個人の企画を支援しようとする試みです。

現在、立ち上げを準備・検討している委員会構成は音楽表現研究の分野バランスを考慮して、以下の 6 名で準備作業をしています。さらに、学会コンサートを開催するにあたっての現実的な問題を検討するために、事務局担当理事にオブザーバーとして参加をお願いしました。本学会ならではの企画、そしてこれからの 20 年、40 年、60 年後…と皆様に長く喜ばれるものを作りたいと考えています。

準備作業として、「コンサート委員会規定」「コンサート実施要領」「応募要項」などを理事会と相談しながら進めています。詳しくは総会で説明させていただきます。ご協力をよろしくお願い致します。また、応募開始の暁にはみなさまの応募を楽しみにしています。

### 「日本音楽表現学会助成コンサート委員会」メンバー（暫定）

委員長：小川 有紀（理事 / オルガン・音楽学）

副委員長：大竹 紀子（理事 / ピアノ）

委員：藤原 嘉文（副会長 / 作曲）

吉田 秀文（理事 / 声楽・音楽教育）

小島 千か（会員 / チェロ・音楽教育）

長谷川正規（会員 / 管楽器・指揮）

オブザーバー：杉江 淑子（事務局長 / 音楽教育）

宮本賢二郎（理事 / 音楽教育・指揮）

---

## 『音楽表現学』の論文・報告も世界に向けて発信します

---

『音楽表現学』もまた日本音楽表現学会設立 20 周年という歩みを記念して変容します。すでに NL2022-No.2 において、『音楽表現学』の論文・報告を今後、世界に向けて発信していきたい旨お知らせいたしました。その第一歩として『音楽表現学』Vol.21 に掲載される論文・報告の英文要旨を HP 上で公開することから始めたいと思います。

投稿の際に英文要旨を付けていただく必要はありません。審査の結果、採録が決まりましたら英文要旨を提出していただきます。英文要旨の書式等、詳細については採録決定後お知らせする予定ですが、必ず英語母語話者の方に見ていただくことを条件とします。その上で提出いただいた英文要旨について専門的な校閲者の検討を経て、必要な修正を施したものを掲載します。次頁の「原稿募集」記事をご覧ください。どうぞご応募下さい。お待ちしております。

# 『音楽表現学』Vol.21 原稿募集

〆切は 2023 年 5 月 15 日 (月) 24:00 です。

『音楽表現学』編集委員長 渡辺 修身

**投稿資格：**投稿者および共同執筆者は、「その年度までの年会費を納入した会員に限る」（投稿規定3）

**執筆要領・投稿方法：**『音楽表現学』Vol.20 の巻末、または学会 HP の「投稿規定」をご覧ください。

**投稿書式：**投稿時点では2段組でなく、1段組でご応募ください。

**引用文献の記載方法：**HP に例示しています。

**執筆方法：**本学会発行『2020 年版音楽表現論文執筆のしおり』を参考にされることをお勧めします。

\* 投稿する前に、ご自身が上記「投稿資格」に該当することをご確認ください。

\* 本学会発行『2020 年版音楽表現論文執筆のしおり』を座右にご執筆ください。執筆者の意図が読み手に伝わるかどうか、投稿前に周りの知人に一度読んでもらうことをお勧めします。

\* 応募原稿が論文及び学術誌の原著性を損ない、論文の著作権の帰属に関する問題や研究実績の不当な水増しにもつながり得る「研究者倫理に反する行為」にならないよう注意してください(文部科学省ガイドライン)。

\* 投稿に際しては学会 HP に掲載されている「音楽表現学テンプレート」をご使用ください。

\* 投稿する前に、投稿予定の原稿が学会 HP の「投稿チェックリスト」に適合していることをご確認下さい。

\* 投稿原稿には学会 HP 掲載の「投稿申込書」を同封してください。

\* 『音楽表現学』には「原著論文」「評論論文」「研究報告」の他に「批評」「書評」「寄書」「展望」「解説」「その他、国際会議参加報告、研究会・研究所紹介等」も掲載できます。

数多くの会員の皆さまが日頃、演奏をはじめとして様々な音楽表現に関する活動をしておられます。またそのために大いに研鑽を積んでおられることでしょう。その研鑽の記録、演奏表現の比較、演奏表現の問題点などを文章にしてみたいかがでしょう。会員の皆さまの活動が論文や記事の形で残されるならば、本学会の存在がますます重みを増すものになると考えます。執筆に挑戦してみようとお考えの方はどうぞ学会事務局までお問い合わせください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

\* 「人に読んでもらう、理解してもらう」投稿原稿を作成するために次の諸点に留意されるようお勧めします。

- ① 最初に本学会発行の『2020 年度版音楽表現論文執筆のしおり』を一読されることをお勧めします。『しおり』にはこれから書こうとする人のために多くのヒントや練習が含まれてれています。2020 年度版には「論文等の評価の視点」なども追加しています。
- ② 原稿完成を遅くとも締切日の1週間前を目処にして作成されることを強くお勧めします。
- ③ 「完成した」と思ったら一晩寝かせてください。
- ④ 翌日、完成した原稿と「投稿チェックリスト」の項目を照合して、原稿が各項目を充足しているか、確認してください。
- ⑤ 同時に周りのだれかに読んでもらいましょう。他の分野の方でも構いません。読んでもらうことによって、自分の主張・意図を自分が考えているように理解してもらえるかどうか分かります。
- ⑥ 採択される原稿の多くは、以下のような要件を備えているといえます。
  - ・『音楽表現学』の掲載原稿として、内容や主題が適切である。すなわち、問題設定と研究方法・研究対象が、音楽表現研究として妥当であり、説得力がある。
  - ・関連する先行研究を十分にふまえた上で、未発表の原稿としてオリジナリティがある。
  - ・標題が内容を適切・正確に表している。
  - ・論旨の展開に矛盾や飛躍がない。
  - ・章・節の構成や順番が適切である。
  - ・結論は、はじめの問題設定に答えるものとなっている。
  - ・扱われている資料は信頼できるものであり、資料の解釈には妥当性がある。
  - ・『音楽表現学』の読者(音楽家・音楽研究者)が必ずしもその問題や領域の専門家であるとは限らないことを配慮している。
  - ・文章は明晰で、特殊な用語や表現などは正確に説明されている。
  - ・文章の引用方法や注・文献表記、譜例や図表は書式に揃っている。
- ⑦ 演奏する曲を何度も繰り返し練習するように、自分の文章も何度も読み直して推敲しましょう。

皆さまの投稿をお待ちします。

## 事務局からの重要なお知らせとお願い

### 1. 2023 年度総会について

2023 年度総会が第 21 回（平安）大会第 1 日目（6 月 17 日）に開催されます。総会に欠席される場合は、委任状の提出をお願いいたします。委任状は、大会参加申込み Google フォーム（本ニューズレター 6 頁に案内掲載）から提出いただくことができます。大会にご欠席の会員の方も、必ず、参加申込み Google フォームの「項目 2. 大会・総会の出欠について」に回答の上、送信くださいますようお願いいたします。

### 2. 年会費の納入について

- (1) 納入期限：その年度の 4 月 1 日から大会開催 1 週間前までにお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。滞納されますと、機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたします。例年年度当初（4 月）に速やかな納入をお願いしています。今年度の会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。なお、3 年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

- (2) 振込方法：

年会費納入方法の合理化のために、「ゆうちょダイレクト等ネットバンキング」に入金できる方法も導入しました。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能です。もちろん従来の「払込取扱票」でも構いません。年度当初の速やかな納入をお願いします。

年会費納入方法：A) 郵便局からの振込（払込取扱票を利用）

（記号—番号）01370 =6= 78225 加入者名：日本音楽表現学会

B) 他行等からの振込（店名 - 口座番号）

店名 一三九 (139) 店 預金種目：当座 口座番号：0078225

- (3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へお問い合わせ下さい。

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

- (4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HP から書式「年会費減免願」書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

### 3. 住所等、会員情報の変更 HP フォームにて速やかにお知らせをお願いします

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。また、経費節減のために学会からの郵送物は郵送ではなく、「デリバリーサービス」を使っています。郵便局宛の住所変更届は民間配送業者には届きません。学会からの送付物が必ずお手元に届くように、また返送による送付作業の手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

郵送物の住所変更届を郵便局に提出されても民間配送業者には届きません。

HP フォームからのお届けを事務局で受け取りましたら、「受け取りました」の返信をお送りします。返信が届かない場合は、お手数ですが、メールにて変更内容を事務局アドレス宛に再送くださるようお願いいたします。

## 4. 学会員の研究サポート制度

### (1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は毎月5月15日24:00です。

### (2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。〆切期日は厳守ですので各自で明記してください。

大会発表応募〆切は毎月2月15日24:00です。

## 5. 会員への情報案内

### (1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

研究ノート、随想などを図表等を含めて刷り上がり1頁以内でお送りください。

### (2) コンサート等の後援・協賛

学会HPより[コンサート等後援/協賛申請フォーム]をダウンロードして、必要事項を記載し、メール添付ファイルにて学会事務局に申請してください(各項目は1行39字以内を原則とします)。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。HP及びニュースレターにも案内を掲載します。出演者氏名の掲載は会員のみとなります。事務局からの返信が1週間以内に届かない場合は、事務局にご連絡ください。

### (3) 新刊案内・CD/DVD リリース

ニュースレターとHPに掲載します。

- ・新刊案内の項目は著者名(会員)、書名、ISBN、出版社、発行年月日、判型と頁数、税込価格(税抜価格)、購入方法など
- ・CD、DVDの項目は制作・編集者名(会員)、タイトル、DVD-No.、所要時間、発売・販売、発行年月日、税込価格(本体価格)、購入方法など

### (4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

## 6. 学会発刊の書籍の販売について

### (1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法と価格

メール等で事務局までお申し込みください。

代金は、到着後郵便振替でお願いします。大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

| Vol. | 会員価格(1部)  | 一般価格(1部)  |
|------|-----------|-----------|
| 1～3  | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |
| 4～14 | 3,000円+送料 | 3,500円+送料 |
| 15以降 | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |

## (2)『音楽表現学のフィールド2』好評発売中。

[購入申込書]

メール等で事務局までお申し込みください。

会員価格にて購入いただけます。代金は、到着後書籍に同封の郵便振替をお願いします。

会員価格：3,000 円（正価×0.9－α、税込・送料込み）

一般価格：3,456 円（税抜 3,200 円）

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。

氏 名：\_\_\_\_\_

部 数：\_\_\_\_\_

送 付 先：\_\_\_\_\_

連絡用 E-mail：\_\_\_\_\_

## 7. 入会手続きについて

本会機関誌への投稿や大会での発表の申込みは本会会員であることが条件です。手続きには2～3週間かかります。

①入会申込書はHPからダウンロードし、メールで事務局にお届け下さい。

②事務局から必要な手続きについて連絡が届きます。その連絡に沿って手続きをお進めください。

③手続きが完了したら、理事会の承認に進みます。

・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。

・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

## 8. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

①「退会届」をHPからダウンロードして必要項目をご記入の上、メールで事務局にご提出下さい。

②大会の必要条件「その年度までの年会費を完納」を満たしているかどうか、ご確認ください。

## 9. 名簿の発行について 大会要項』に同封します。

NL2022-2号において、今年度内に更新会員名簿を発行する予定でご協力をおねがいしましたが、年度替わりで会員の入退会や異動の多い時期であることから、発送時期を1ヶ月程度延期させていただくことにしました。つきましては、新年度に、ご所属・連絡先等、名簿掲載内容に変更される方は、事務局まで速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。なお、既に更新名簿掲載内容について連絡済みで、新年度以降に変更のない方は改めて連絡をしていただく必要はありません。

## 第20回日本学術振興会賞 推薦募集について

学会からの推薦を希望される方は本学会の「『日本学術振興会賞』および『育志賞』の推薦に関する内規」(『音楽表現学』vol.20, p.159)をご覧ください。事務局までお申し込みください。

「日本学術振興会賞」

URL <https://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>

推薦受付期間：2023年4月5日（水）～4月10日（月）17:00

対象者の条件：45歳未満。博士の学位を取得もしくは同等以上。

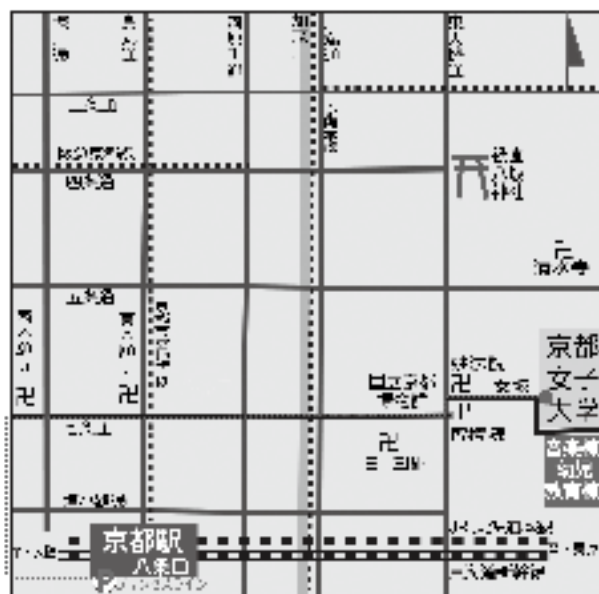
申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を理事会にて1名選出します。候補者として選ばれた方は、受付期間に書類を整えて準備、学術振興会に電子申請することになります。ご質問等がありましたら事務局 [music-expression@music-expression.sakura.ne.jp](mailto:music-expression@music-expression.sakura.ne.jp) までご連絡下さい。

## 日本音楽表現学会第21回（平安）大会会場のご案内

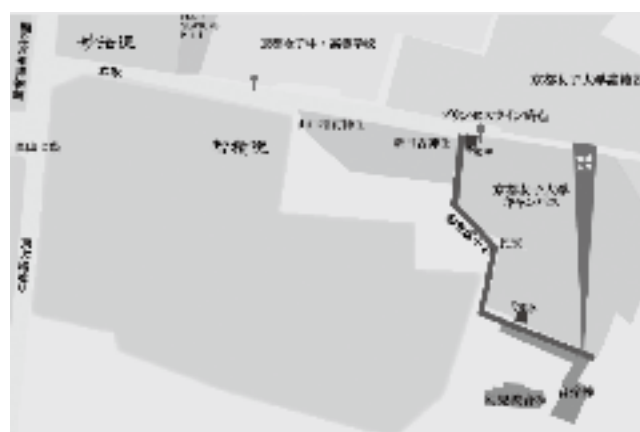
会 場：京都女子大学音楽棟・幼児教育棟（京都市東山区今熊野北日吉町 35）

会 期：2023 年 6 月 17 日(土)-18 日(日)

内容・参加方法等：詳細は本誌 p.2—p.6 をご覧ください。 アクセス：



- ① 京都駅新幹線改札から 1F 八条口に出て、右前方
- ② 大阪寄りのプリンセスライン乗場へ
- ③ 赤いバス（写真）に乗り、  
終点「京都女子大学前」で下車
- ④ 守衛所のある正門の右（塀の西側）の道に沿って  
徒歩 10 分（下図）
- ⑤ 門を入って音楽棟 1F 玄関「大会受付」に到着



### 2022 年度役員・委員等一覧

|                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>会 長：小西 潤子<br/>副 会 長：藤原 嘉文 石原 慎司<br/>事 務 局 長：杉江 淑子<br/>財 務 局 長：寺内 大輔<br/>理 事：宮本賢二郎（事務局担当）<br/>小川 有紀（財務局担当）<br/>大竹 紀子（総務担当）<br/>吉田 秀文（総務担当）<br/>監 事：渡会 純一 橋本 智明<br/>参 与：中村 隆夫 安田 香<br/>会長諮問会議：安藤 政輝 佐々木正利<br/>後藤 丹</p> | <p>編集委員会：<br/>委員長 渡辺 修身<br/>副委員長 小川 容子<br/>委員 稲木 真司 田中 宏明<br/>田中 昌司 豊田 典子<br/>長谷川正規 三島 郁<br/>著作権ワーキング：<br/>代表 福本 康之<br/>委員 近藤 晶子 酒井 勇也<br/>高橋 豊 中村 滋延<br/>選挙管理委員会：<br/>委員長 田邊健太郎<br/>委員 牛渡 克之 松井 萌</p> | <p>デザイン室：<br/>室長 奥 忍<br/>参事（HP / 機器）近藤 晶子<br/>（D 室）中村 公俊<br/>（J-Stage）長山 弘<br/>（庶務）似内裕美子<br/>（庶務）松井 萌<br/><br/>スタッフ<br/>（事務局）：湯浅 佳苗<br/>（財務局）：藤脇知寿子</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 編集後記

今回のニューズレターは非常に示唆的な寄稿に恵まれました。藤原氏の巻頭言は作曲家のクリエイティブな頭の中を垣間見せてくれましたし、宮本氏の随想では 1 つのアリアに潜む奥深さを感じることができました。色々な状況に負けていられないほど、まだ知りたいことが多くあります。そしていよいよ「平安」大会のご案内をお届けする時となりました。1 日目の基調講演、レクチャー、新生サロン、特別公演、2 日目の多くの研究発表も大変楽しみです。学会の設立 20 周年という節目にいくつか新しい試みも始まります。京の都で平和と安寧を祈りながら、音楽ができることについて皆さまと語り合いたいと思います。

（大竹 紀子）